

○食と花の世界フォーラム事業

（コーディネーター）

それでは、食と花の世界フォーラムということでの説明でございます。担当課のほうからよろしくお願いいたします。

（説明者）

事業番号2-15、農林水産部食と花の推進課所管事業の食と花の世界フォーラム事業について、ご説明のほうさせていただきます。

まず、207 ページ、事業目的についてでございます。新潟市は、日本有数の大農業都市ということで、米を始め、多彩な食、また、花栽培も非常にさかんでありますので、この食と花をキーワードとして、その個性を国内外に発信をして、国際情報拠点都市としての機能を高めていく。これが極めて重要な状況になってございます。このような認識のもとに、安全性や需要の増大など、昨今の食の世界的問題を議論する場として、また、交流を育む場として、さらには、最新情報の発信拠点として、世界でもトップクラスの都市となる。これを目的として、産官学民一体となって取り組んでいるのが、食と花の世界フォーラムでございます。

同じく 207 ページ、対象についてでございます。2005 年のプレ開催から今年で5回目を迎えて、食と花という新潟の強みを市民の皆さまに意識してもらおうという第一段階の目的、これは、おおむね達成したということで、今後は今までに得られた知財、人材ネットワークを活用して、農業や食品産業の高度化、活性化を目指して取り組んでいきます。

同じく 207 ページ、事業の内容についてでございます。フォーラム事業は、食の国際会議、食と花の国際見本市、そして、食の新潟国際賞の3つの事業で構成されております。うち、食の国際会議と、食と花の国際見本市は、食花関連団体、経済団体、大学、県、市など 42 団体が委員会を組織して実施しており、食の新潟国際賞については、国際賞財団による運営となっております。

内容についてでございますが、食の国際会議は、内外の研究者による講演、ディスカッション等が主な内容で、食を取り巻く課題に深く関わっていきます。食と花の国際見本市については、プレ開催の2年間は、市民向けの物販中心のイベント型で開催をいたしました。本格開催は、平成 19 年度からでございますけれども、平成 19 年度からは、食と花、それぞれ最盛期が異なるということで、切り離して別開催といたしまして、さらに、平成 21 年度、昨年開催からは、ビジネス優先の商談型に切り替えております。

食の新潟国際賞は、世界的な食の受給など、食の量的、質的課題の解決に向けた、多大なる功績を顕彰するものです。

次に、同じく 207 ページ、事業の必要性でございます。今、食については、世界的問題

でいろいろ大変な状況でございますけれども、そういう中、屈指の食料供給基地である新潟市を内外に広くアピールするということは、国際的につながりを深めるということでもございますし、産業の高度化、発展に大きく寄与するものでございます。今後、新潟市が発展していく上で、当該事業の必要性というのは極めて高いと考えております。

次、208 ページ、コスト、事業費、内訳、実績等、これは、資料記載のとおりでございますので、説明のほう省略させていただきます。

続いて、209 ページ、目指す成果でございます。食の国際会議では、食を通して、新潟市の都市イメージを国内外にアピールすること、それと、食と健康という視点から、産学官連携研究開発基盤の構築ならびに知財の集積、人材ネットワークを形成をして、地域産業の発展につなげていきます。また、健康にかかわる情報を市民の皆さまに発信をして、食の大事さというものを伝えていきたいと思っています。

食と花の国際見本市、これは、海外や首都圏、隣県企業やバイヤーに今後の参加を促していくということで、集積ポテンシャルというのを高めていって、新たな商流、物流を生み出すべく取り組んでいきます。

食の新潟国際賞、これは今年度初めて受賞者を決定して、受賞式典を挙行いたしますけれども、海外メディア、国内メディアを通じて、受賞者の業績とともに、新潟の食の質、安心・安全、高度生産技術、研究開発力などをアピールし、拠点化を進めるとともに、国際機関、国内外の学会・研究機関や有識者との連携関係の構築を目指します。

引き続き、209 ページ、達成状況でございます。食の国際会議では、市民の皆さまには、食の新潟が着実に浸透したものと思っておりますし、また、新潟市とつながった、食について先端を行く研究者については、国内外ですでに 80 名を数えておまして、知財の集積、人材のネットワーク化が確実に図られてきております。これらは、食の最新情報を得るということと、研究開発を進めるといううえでは最も必要なものということで、今後、農業や食品産業が発展していくためには、欠かせないものと認識しております。産学官連携の研究開発基盤といたしましては、本年度、大学や公的研究機関の研究者と、食品バイオ関連企業、農畜水産業の関係者等で構成されます、新潟食品バイオ研究開発推進機構というのが、設立されました。本年度開催の食の国際会議の中では、アカデミック部門である、食と健康に関する新潟国際シンポジウムというのを主催することになっております。

食の国際見本市については、商談型に切りかえました、平成 21 年度開催、これでは、出展者数が 137 社、来場者数は 4,402 名、ほとんどがビジネス関係者。85%がビジネス関係者でございます。当日のバイヤーディスクでの商談数は、170。なお、商談については、それぞれの出展ブースでも行われておまして、出展者アンケートによりますと、商談に結びつかなかったという回答については、14.3%ということで、おおむねは、85%。おおむねについては商談があつて、また、その場で成約、ほぼその場で、成約までこぎつけた出展者が 50%を超えたと。これは、一定の成果を得られたものとして、評価しております。また、次回開催の出席について、出展しないとの回答はわずか 6%ということで、平成 23

年度開催予定の食の国際見本市出展については、大多数から前向きに検討いただけるものと喜んでおります。

花の国際見本市につきましては、食に比べ規模の小さい開催となっています。花は研究開発、あるいは流通、資本規模ということで非常に課題が多いということで、また、最近の食の事情というのもありまして、食に重きを置いた対応にならざるを得ないことについて、ご理解をいただきたいと思っております。

食の新潟国際賞、これは、今年度が第1回ということでございますので、成果については、今後お示しすることになろうかと思っております。

209 ページ、事業の自己評価、今後の事業の方向性、課題等についてでございます。運営について、自立すべく民間移行を進めます。民間のノウハウを活用し、事業収入の増加や営業力の改善など、段階的試みを進めております。食の国際会議では、本年度から新しく設立された産学官連携組織が一部運営を行いますし、食の国際見本市では、地元運営企業の育成に努めております。

課題についてでございますけれども、民間移行にいくに当たっての採算性というのが、やはり大きな課題でございます。持続可能な運営体制をいかに構築するかを再重要課題として検討しておきます。

210 ページの事業のスキームは、資料のとおりでございますので、説明のほう省略させていただきます。

以上で、食と花の世界フォーラムについて、説明を終わります。問題点等、ご指摘、またご指導くださいますようお願いいたします。

(コーディネーター)

ご説明ありがとうございました。

こういう一つの仕掛けをするには、政令指定都市として都市のブランドを確立しているというねらいも確かにあると思うんですね。ただ、税金を使って新潟市が何でその責務を担うのか。また、その方法論はいいのか。あるいは、目的はコロコロ変わることなくしっかりしているのかどうか。こういったことも含めて、ご議論をいただきたいと思っておりますが、その前に若手職員の方が、論点を整理していただいておりますので、お願いいたします。

(作業チーム)

対象事業として選定した理由、考えられる論点としましては、食と花を都市ブランドとして確立する目的があるが、単独で事業を行うのではなく、食と花に関連する他事業、イベントと連携し、相乗効果を招くよう事業を見直す必要があるのではないかと。市の負担割合は適切か。経済効果はどの程度出ているのか。また、今後の見込みはどうかということが挙げられています。

(コーディネーター)

ありがとうございました。

それでは、質疑に入ります。

まず、このフォーラムの事業を、これ自体が必要なのかどうか。そういった論点から、ぜひご議論をいただきたいと思いますが、ご質問等含めまして、よろしく願いをいたします。いかがでしょうか。はい、どうぞ。

(外部評価委員)

そもその前に、このフロー図がありますよね。非常に、私、事業の中身分からなくて申し訳ないんですが、わかりづらい組織形態というんですか、3つそれぞれ四角があるわけなんですけども、市のほうから補助金が出ているところと、負担金が出ているところと、そこがまた負担金が出ているところから、また別の半分の負担金が出ているという感じで、非常にわかりにくい仕組みになっているんですけども、これは、どうしてこうなったんでしょうか。

(説明者)

一部民営化を進めていることもありまして、当初はこれぐらい複雑な内容ではなかったんですね。先ほどもちょっとご説明したように、42 団体で委員会を構成してその組織委員会が運営をしていると。そういう中では、3つの事業としては、食の国際会議と、食の見本市、食と花の見本市、それと、国際賞という。

そういう中では、国際会議については、一部民営化といいますか、産官学連携組織というのを、設立を目指して、具体的に研究者のネットワークと活用できるような組織作りをして、その会議の中の1つのイベントと言いますか、シンポジウムなんですけども、これは、有料でお金をいただいて、研究者だけのシンポジウムを開催しています。これを完全にそういう、産官学連携組織で運営したということで、ただ、初年度なので、負担金を一部出させていただいたと、そういうことでございます。

それと、国際賞については、国際賞財団。運営は財団でございまして、財団の行う事業に賛同し、一部市のほうで負担させていただいているということでございます。

(コーディネーター)

図で言うと、今の民営化の部分と財団の部分、ちょっと委員のほうへ、言葉でざっとしゃべられるとなかなかわからないので、図を参考にしながら、言っていただけますか。

(説明者)

わかりました。

民営化については、右側の負担金2分の1、下に第1回食と健康の新潟国際シンポジウムでございます。これは、産官学連携組織、今年設立した連携組織で運営をします。これが、今までは、フォーラムの中で、行政委員会のほうでやっていたということで、それでちょっと枝分かれしたような形になります。

左側については、これは、食の国際賞財団が運営する組織でございまして、これについても、委員会で運営しているわけではなくて、市として、その財団の一部、主旨に賛同して、協力金を出しているということで、フォーラムとしては、この3つを一つのフォーラ

ムとして考えて、運営のほうしております。

(外部評価委員)

私の事前の質問が、かなりナンセンスだったとわかってきたんですが、要は、この3つがどうも中身、この質問の回答見ても、記念講演があったり、やっぱり講演があったり、シンポジウムがあったりで、かなり中身ダブっているのかなと思っていたんですが、実際はどうなのでしょう。そもそもの進んでいるあれが違うので、やっぱりこれは、一緒にすることはできない事業だということですね。

(説明者)

基本的には、食と花の世界フォーラムというのは、この3つの事業で構成されていて、一部民営化を目指している部分については、民営化の方向に行っているし、国際賞については、初めから、財団で運営してきているので、それでも食と花の世界フォーラムの大きな目的は1つでございまして、それぞれ役割、行う事業によって、役割があって、その内容で運営していると。それも、先ほど調書の中で書いてございますし、ご説明のほうさせていただきますということですね。

(コーディネーター)

補足ですか。はい。

(説明者)

この食と花の世界フォーラム、組織委員会、できたときにこの国際賞と、国際会議、見本市というのは、セットで進めるというふうに戦略的には生まれております。これは食を通じて、世界で活躍する人材ネットワークを作るという意味で、これは情報を集めるという役割として、国際賞はございます。それを新潟に集めまして、発信する仕組みとして、食の国際会議があると。この集められた食の最先端研究というものを、企業化にもっていくという視点で、食と健康の国際シンポジウムというものが作られていると。これを通して、食の情報拠点都市という意味と産業振興ということ、これはもともと、民間から生まれたフォーラム提案でございましたので、そういうところに帰すうをしていくという仕組みで作られております。

(コーディネーター)

いいですか。

民間の部分があるし、今のご説明だと、民間から提案されたとか言うんだけど、こういうものというのは、本当に行政が税金でやるべきものなのか、民間が提案されて、民間がやるような仕組みに移行を今していただいているとは思うんだけど、何で全部やれないのとか、そういう議論は必ず出る話です。

(外部評価委員)

このお金の確認なんですけども、全体事業費が 4,450 万ということでよろしいですか。208 ページのところ、総事業費 4,450 万、職員人件費、コスト含んで、4,450 万ということよろしいでしょうか。

要は、市がどのくらい負担して、関連産業団体とか、寄付金とか、官と民というんですかね。公と民の負担がどうなっているかと確認したいんですけれども。

(説明者)

この財源という形で示されているものは、市に予算化されている事業費でございまして、これが組織委員会のほうに行く部分でございまして、それが、組織委員会の事業費という形になります。組織委員会では、今回は、市の負担としては、2,200万ほど国際会議の事業費と出ております。残りは、800万ちょっとあるんですが、これが、いわゆる協賛金という形で民間からいただいているという形で、3,000万ほどの国際会議の事業費になっています。

(外部評価委員)

では、ほとんどが税金を使ってやっているという。現在のところは、そういうことになる。

(説明者)

割合的には、71.8%。

(外部評価委員)

そうですね、はい。

この食の新潟国際賞財団というのは、これは、新潟市の外郭団体か何か、そういうことでしょうか。

(説明者)

この財団は、全くそういうのではなくて、民間が寄付金を集めまして、立ち上げております。

(コーディネーター)

そのほかいかがですか。はい、どうぞ。

(外部評価委員)

よろしく申し上げます。

この事業、私も実を言うと立ち上げのときかかわっていた経緯がありまして、だいたいの仕組みは理解しているつもりです。その中で、当時目指すべき姿と、現実の今の参加者数とか、ビジネスに特化したフォーラムであるとか、ビジネスマッチングを目指しましょうということで、確かこれは設立されたような記憶があります。

質問事項に、国際という名前がついていますので、海外との取引事例はどれぐらいでしょうかという質問をしたんですけど、海外からの出展者数、来場者数はどの程度かというものに関して、国際見本市、21年度開催分につきまして、海外出展者数が10団体。来場者、バイヤーがたった4人しか来ていないという現実だと思いますが。まず、これは間違いございませんね。

(説明者)

はい、そのとおりです。

(外部評価委員)

その辺を踏まえた上で、先ほど、税金の割合が、当初の予定ですと、もっと多分低くなっている計画だったのかもしれませんが、現実的にまだ7割以上が税金投入されているという現実の中で、国際という名前がついておきながら、まだ、海外からのバイヤーがちょっと少ないというものに対する市役所の見解というか、フォーラムの事務局というんですか、フォーラム自体の考え方というのは、どういうふうに、今、これに対して対応策はこうしようとかというのは、何か具体策はございますでしょうか。

(説明者)

今、申し上げましたとおり、当初は、海外からも無償招待という形でおいでいただいて、やってまいりました。しかし、あまり商談がまとまらなかったということもございます。運営に当たっても、当初は今の事業費の半分以上は、かなり協賛金、企業からもいただいておりました。ここで、一つの大きな障害にぶつかったわけでありまして。企業側の成果と賛助金が比例して落ち込むという格好になってまいりましたので、この辺は、企業マッチングというところでもっと力を入れていこうと。要するに、無料でおいでいただくだけでは、海外とのマッチングはうまくいかないということもございまして、情報発信は、非常に力を入れてやっていくというスタンス。それから、大使館等を通しながら、そういう働きかけは、力を入れていくというスタンスは、今でもずっと続けておりますが、いかにせん、急激な成果には結びついておりません。

(外部評価委員)

努力されているというのは、皆さんよくご存じのところだと思うんですけど、結果をどの辺にとらえていくかという部分が、2005年からやっていますので、もうそろそろ求められる部分かなと思うんですけど、その辺の具体的なビジネスマッチングの数をこれだけやりましょうとか、そういうものは何かございますか。あれば教えてください。

(説明者)

見本市については、3年後ぐらいを目途に完全民間移行をするつもりで、運営する具体的な企業に、今、かかわってもらいながら育成しているということで、その時点では、出展ブースで280、出展費用で30万円、それで採算性は出てくるだろうということで、ただ、そこまで行きつくにはかなりハードルが高いということもあって、今後、その辺をどうやっていくか。情報発信をして、新潟の食の質というのをとにかく広くアピールしていかないとつながっていかない。そういう意味で、国際会議とか国際賞とかということで、広く食の質を発信するにあたっての人材的なネットワークだとか、知財のネットワーク、研究開発も当然質を高めるためには必要になっておりますので、その辺も含めてやっていくことで、その辺が目指せるのかなと考えております。

(外部評価委員)

質問としては、具体的な、今、出展数280というのがあったんですけど、どちらかというと、この会議の成果のあり方としては、健康の新潟国際シンポジウムみたいな形の、ビ

ビジネスで新潟を活性化させるための大きな柱ということで、食と花を位置づけたと記憶していますので、このビジネスマッチング数に対して、目標数字はないのでしょうかということ。

お金を出してもらえば、多分出展はしてもらえらるんだろうと思うんですけども、そこに実際、ビジネスとして成果を求める人たちの数が、先ほど言ったように五、六千人は多分来るんでしょうけれども、実際そのビジネスの数というんでしょうか、リアリティのあるビジネスというものが、実際どれぐらいここで展開されるという目標設定みたいのが、このフォーラムの中では設定されているんでしょうかという質問です。

(説明者)

出展者数が伸びるイコール取引があるという考え方で、いい意味では、新潟に参加される企業というのは、新潟の食を発信していく、売っていくという企業でございますので、非常に魅力のあるものだと私どもは思っておりますし、できるだけ多くの取引がなされるようにということで考えておりますし、平成 21 年度については、実際の取引がその場で 50%に達したという実績もございます。

(外部評価委員)

最近のこのフォーラム系のものを見てみると、大体、商談取引額というのをかなり重要視してやっているように思うんですね。マッチング数が多くても、出展者数がいくら多くても、額が伸びないとあまり魅力的なフォーラムには育っていかないのかなという気がします。もし、マッチング数がわからなければ、額の設定というのをぜひ設けていただきたいと思うのですが、その辺どうでしょうか。

(説明者)

実際、アンケートを取って、回答いただいたのが半数に満たなかったんですね。その数字は把握しておりますし、そこから試算すると、おおむね、平成 21 年度の見本市の取引金額というのは、その場での金額というのはあくまでも想定ではお答えできます。あと、やはり、せっかくそうやってマッチングして、引き続き交渉等もあるかと思ひまして、今年度、来年度に向けての見本市出展について募集している中で、具体的な数字をいただきたいということで、今、対応しています。確実に出展者数が決まった段階で、平成 21 年度の見本市の取引額というのを、おおむねご披露できるかと思ひます。

(外部評価委員)

それに対する目標設定というものを、フォーラムの中で協議したり、具体的な数値というのは、今、お持ちではないですか。

(説明者)

金額については、設定はしておりません。今、私どものほうは、どちらかというと、このフォーラムをいかに、効率的に運営していくところをまず作らないといけないということで、先ほど申しましたとおり、280 コマ 30 万という出展料の中で、この経費、今、市から負担をいただいております経費、これをできるだけゼロに持っていこうと。その中で、

それをやるためには、バイヤーが集まってくると。今は、事業費が 10 万そこそこですが、これを 30 万に上げるということは、出資側もかなりの投資をするわけですので、そういう意味合いで理解しています。

(コーディネーター)

まだ続きますか。いいですか。

この事業を、今のいろいろなご質問を聞いている中で、リーマンショックによる経済不況って大きいですね、きっと。民間が言い出して、さあやろうよ、新潟元気になろうよと、多分やられたことじゃないかと思うんですけど、結局、今、民間のほうというのは、そうやっている場合じゃなくて、自分のところがどうなるかという、そういう中で、今回 5 回目ですか。途中でやめちゃうのも格好悪いわなという話があって、結局、何とか維持をして、新潟を活性化していこうという部分に、税金を使うことでの無理がないかどうかということ、やはり考えないといけないと思うんですね。ですから、そこら辺が、今の具体的な目標ができていいのかどうかだとか、そういう、本来イベントをあるべきというよりも、どちらかという、何とかして頑張って、税を使わずに元気な新潟を作ろうとしてやっているんだけど、それが、しっかりやれているかという検証をぜひしていただきたい。もしも、本当にいらぬものであれば、一度待ちましようかという選択だってあると思うんです。この事業仕分けの中では。そういうことをまず必要性から、ぜひ議論をしていただきたいと思います。

そのほか。どうぞ。

(外部評価委員)

全体的に、2,800 万という少ない予算に対して、事業数といいますかイベントが多すぎます。非常に、的が絞られていないという印象を受けます。同時に、2 つ大きな柱で、1 つは啓発、PR 事業、1 つはビジネス事業というふうに、大きく分けてこの 2 つでよろしいですね、国際会議と見本市の部分として。後半のほうの見本市の部分については、ビジネスに結びつけていこうということだと思っと思いますよ。

その中で、本課の農林水産でこのビジネスの部分の部分を賄えるのかどうか。この辺がちょっと疑問なんです、我々民間からすると。ということは、そこにマッチングだとか、商売の慣習とか、さまざまあります。食品の業界とかね。さまざまあると思うんですよ。その中で、所轄が産業振興課だとか、そういう部分も入ってこない、これはうまくいかないんじゃないかと思うんですよ。ものを作っている、農水産物を作っていますよというだけじゃなくて、やはり、ビジネスにつなげるマッチングするスタッフも入れていかないと、非常に、困難な状況に立ち入るんじゃないかなと。その辺を含めまして、どうぞお考えでござりますか。

(説明者)

農業についても、独自産業化ということで、独自でも産業をやっている。経営しているという気風もありますし、そういう中では、我々が一生懸命取り組むことについて、

違和感はないと思っていますし、この事業単独で、すべてが解決すると考えておりません。新潟市は、同時に北東アジアというのをターゲットにした国際貿易、それと農産物の輸出促進、また港湾や空港の整備促進。航空路線とか、航路の拡充。交通物流を充実すべく対応しておりますし、産学官の研究開発についても、新潟バイオリサーチパーク構想、あるいは、新潟IPC財団のほうで、一定の研究開発のほうの成果を上げております。

そのほか、足もとをしっかりと固めるということで、我々農業という部分、産業の基盤作りということや、食育の推進、市民への情報提供も積極的に行っておりまして、日本海側の重要拠点、国際拠点都市としての機能向上、地域産業の活性化、高度化等目的達成のためには、これらを総合的に一体となって進めていくという、そういう思惑、必須であるという、一体となって進めていくということが必須でございますので、今後も我々だけではなくて、関係各部署と連携情報共有して対応のほうしていきたいと思っています。

(外部評価委員)

かなり、広範囲に説明してくれましたけど、要するにビジネスマッチングが大事なわけですね。これを、早く商売に結びつけようと思つと。ですから、産業振興課だとか、例えば、貿易の関係であれば国際課、この辺の横軸で、プロジェクトを組んで、しっかりやらないと花火の上げっぱなしで終わるんじゃないかという懸念はします。

(コーディネーター)

それは、ご意見でよろしいですか。はい。

そのほかはいかがですか。はい、どうぞ。

(外部評価委員)

なかなか難しい話なのですが、食の国際会議、この1つの指標というのが、食の大事さを啓発していくことが目指す成果ということになっているんですけども、特に、この啓発というのは、どういう状況になれば啓発されてというのが、なかなかわかりにくいと思うんですけども、国際会議にしる、国際見本市についても、やはり先ほど言ったみたいに、指標となるものをしっかりやって、こういう状況になったら、この事業というのは、成功したんだよと。

そういうことをやっていかないうちに、そこが明確になっていかないうちに、すぐに民間のほうへ事業を任せて有効な税金の活用というよりも、まずそここのところ皆さんで議論して、共通の理解の中で、指標となるようなもの、要するにどういう形になれば、この事業が成功したかということを決めたうえで、税金の有効活用、ですので、場合によっては、一時はもう少しお金が必要になるかもしれないという、そういうこともあってもいいと思うんですけども、目指すべき成果というのをもう少しわかりやすくしないと、事業の展開がなかなかできないのではないかと思います。実は、浜松市も音楽のまちづくりということでやっているんですけども、私、所管部署は違うんですけども、一体どういう状況になれば、音楽の町になったのかなというのが、市民や職員たちが本当に共通の理解の中でやっているのかなというのはいつも疑問に思っています。

ですので、こういったイベントやる際は、ここまでいったらまずは成功なんだと。第一段階はここまでやろうということ、どういう状況になったら、これが成功したということその形をしっかりと皆さんで議論して、そのためにいろんな工夫をしていくということを考えていくべきじゃないかと思います。意見も含めてですけども。

(コーディネーター)

特にコメントなしでいいですか。今の意見に対して、特にコメントはなしでいいですかという確認で。なしならなしでいいんですよ。

(説明者)

ありません。

(コーディネーター)

そのほかいかがですか。

(外部評価委員)

コメントというか、今まで説明を伺って、よくわからないところがあるのは、このイベントの、新潟のよさというご説明が、例えば食のというお言葉。新潟市なのか、新潟県なのか。そのあたり、私は聞いていてよくわからない、混乱するところがあるんですね。つまり、新潟市独自の食ということであるのか。新潟市の独自のビジネスということなのか。あるいは、先ほどの委員からでましたけども、国際フォーラムなんですよ。その場合の国際というのは、どこまで射程に入れた国際なのかとか。そのあたりをあいまいなままに、国際、国際というと、ここにアフリカから招待される方もいらっしゃるでしょうし、焦点をもうちょっと絞って、具体的に行動しないと、せっかくお金をかけても、成果があまり出ないなど。

さらに、何が成果なのかということ、ある程度、事前に、戦略的に決めておかないと、あいまいになっちゃうんじゃないかなという印象を、説明を受けていてそういう感じを受けたものですから、そのあたりどういうふうに位置づけられたり、説明があるのか、もし可能であれば、お話してください。

(コーディネーター)

端的にお願いします。

(説明者)

新潟はやはり物流で優れているとなると北東アジアと、ロシア極東、ほぼ、国際という観点では、そこにターゲットある程度絞っていいと思います。そのような対応も、貿易上もしておりますし。

(コーディネーター)

ほかいかがでしょうか。よろしいですか。なかなかわかりにくいところもあるかもしれません。

(外部評価委員)

210 ページの、第1回新潟食の国際賞というのは、今年初めてやるというお話ですけれ

ども、この主催が食の新潟国際賞財団というやつなんですが、この財団というのはいつできたんでしょうか。

(説明者)

財団は、昨年2月に発足しております。

(外部評価委員)

まず、財団の構成メンバーというのは、大体どういう方たちなんですか。

(説明者)

構成メンバーは、理事長が古泉肇さんという亀田商工会議所の会頭さん、それから、新潟市長が副理事長。新潟大学の学長が副理事長、それから、農協の中央会長の萬歳さんが副理事長。資料がご配りしてありますので、ごらんください。

(外部評価委員)

ありがとうございます。

(コーディネーター)

これは、市民の一般で聞いておられる方に配られたんですか。ここだけですか。後ろの傍聴者は配られたんですか。

では言葉で説明しながら言ってもらったほうがいいね。

(外部評価委員)

こういう方たちで作られたということで、食の新潟国際賞という位置づけを、世界フォーラム事業の中に組み入れることによって、きっとこの賞を設けることによって、この事業自体の価値を高めていくための評価をしてもらえる人たちだと思うんですけども、実際この構成メンバーを見た中で、こういう人が入っているとかなりすごい評価を得られるんですというような方というのはいらっしゃるんでしょうか。

(説明者)

今、財団の理事の方々については、ご紹介いたしましたけれど、国際賞という話になりますと、我々、海外、全国いろいろ推薦活動をする中では、ローカルの賞という形で見られることが多いわけです。そこに評議委員という方が別におりまして、これは、どちらかというと東京といいますか、首都圏での第一線の研究機関、企業、そういうところがメンバーに入っております。

(外部評価委員)

わかりました。

最後にもう1つだけ、お金の話に戻りたいんですけども、内訳のところ、このイベントをしっかりとやっていくために、例えば、職員の方たちが出張等、いろいろなところに行くと思うんですが、この中に、フォーラムの事務局の人たちの予算というのは、含まれているんでしょうか。含まれていないんでしょうか。それだけ教えてください。フォーラム事務局じゃないですね。構成員の費用が含まれているかだけ教えてください。

(説明者)

208 ページの表を見ておっしゃっていますでしょうか。

(外部評価委員)

はい。

(説明者)

そうですね。その方々については、負担金 2,200 万の中に入っているということになります。

(外部評価委員)

ありがとうございました。

(コーディネーター者)

いいですか。この中身については、もうこれで委員の皆さんいいですか。お土産代、食事会、いろいろやらないといけないということのようです。

そのほかいかがですか。

よろしいでしょうか。それでは、仕分けに入ってくださいでしょうか。

それでは、食と花の世界フォーラム事業について、仕分けさせていただきます。

この事業が、不要だと思われる方。ゼロ。

民営化だと思われる方。ゼロ。

国・県・広域。ゼロ。

市で実施、民間活力の拡大。お二人ですね。

市で実施、要改善。

残りの方、5名です。

ありがとうございました。

グループとしましては、要改善という結論ではございます。

それでは、少しコメントをいただきたいと思いますが、民間活力の拡大というところで、評価された方、ご意見があればお願いしたいと思いますが。

(外部評価委員)

なかなか成果が出づらい。地道な活動だと認識しているんですけども、その数字という形で、評価できにくいような部分での成果もあるのかなと思います。そういった部分に関しても、市民にもっとわかりやすく伝えていかないと、なぜこれを新潟市がやらなくてはならないのかという、何かもっと市としての戦略も含めて、もっと説明をしていただければいいのかなと。その上で、民間の力も借りつつ、引き続きやっていくのが望ましいのかなと思いました。

(コーディネーター)

ありがとうございました。もう一方。いいですか。同じような意見で。

結論的には、要改善ということでございますが、改善のポイントを何か、ご発表いただける方がありましたら。

(外部評価委員)

見ていますと、非常に事業がばらけてしまっている感じがします。焦点が絞れていない。したがって、もう一度仕切り直して、やれるところからじっくりやってほしい。それと同時に市民参画をもっと拡大してほしい。これをお願いしておきます。

(コーディネーター)

ありがとうございます。はい、どうぞ。

(外部評価委員)

私は、事業の方向性としては決して間違っていないというスタンスです。ただ、先ほど、冒頭にも出しましたが、仕組みの部分が、もう少しわかりやすく説明できるという点かなという点が1つと。

あともう1つ。目標設定がどうしても必要なだろうと。これだけ税金を使って、もう5年やっています、ビジネスがこれしかできていませんというのでは、目指している方向に対して結果という指標をそういうところで打ち立てる必要がそろそろあるんじゃないかと思いますので、その点をぜひ改善をしていただいて、成功に導いていただきたい。それが、成果として達成できなければ、次はやめるとかという段階に移っていてもしょうがないのかなと思いますので、その辺をぜひよろしくお願ひしたいと思います。以上です。

(コーディネーター)

ありがとうございます。

そのほかはよろしいですか。

(外部評価委員)

私も、基本的には同じなんですけれども、今まで言われなかった点に関して、やはり事業の構造がわかりにくいですね。最初に図で説明していただいた。恐らく、これは、もう少し市民には、説明できるような形で、今、こういう段階で、こういう構造でやっているけれども、将来こうなるんだと。先ほど出たように、なかなか効果って、即効性が出てくるような仕事ではないので、だからこそ、もっと説明をする機会をたくさん持たれたほうがいいのではないかと思いました。

(コーディネーター)

ありがとうございました。そのほかよろしいですか。

では、総括させていただきますけど、こういうフォーラム、イベントにつきましては、やはり総合性だとかストーリー性というのが求められてくると思います。委員の皆さんの中からも、目指すべき成果は何なのかというご意見がございました。とかくこういう事業は、開催することが目的になってしまって、本来何を達成するためにこれをやるのかということがございますので、委員の皆さまの中で、ぜひ改善をしながら進めていきたい。時には、立ち止まる勇気も必要だというご意見だったと思います。

それでは、これで仕分けのほう終わらせていただきます。

ありがとうございました。